

# 令和7年度第2回会津若松市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和8年1月13日(火)  
開会 午後1時30分 閉会 午後2時55分
- 2 場 所 会津若松市役所本庁舎 3階 3-5会議室
- 3 出席者 市長 室井 照平  
教育長 寺木 誠伸  
委員 明田 圭右  
委員 長澤 尊子  
委員 田中 裕志
- 4 欠席者 委員 秋山 理恵
- 5 事務局出席者 教育部長 渡部 孝  
副部長兼教育総務課長 吉川 加代子  
生涯学習総合センター所長 杉原 卓也  
学校施設給食課長 千葉 昌弘  
// 主幹 澤栗 敏春  
// 主幹 諏訪 定明  
教育総務課主幹 福原 英則  
// 主幹 小檜山 智晶
- 6 協議題 (1)次期「会津若松市教育大綱・教育振興基本計画」策定について  
(2)教育施設のあり方について  
(3)その他

## 7 議事の概要

○開 会

○会津若松市長あいさつ

○議事録署名人 明田 圭右委員、田中 裕志委員を指名

○協議内容

<議長：室井市長>

早速、協議に移ります。一つ目は、本市の教育施策の基本的な方向性を示す、教育大綱・教育振興基本計画について、次期計画の策定に向けた協議をお願いしたいと考えております。

現行の教育大綱・教育振興基本計画は、計画期間を令和8年度までとして策定しておりますが、社会情勢や教育を取り巻く環境は、少子化の進行やデジタル化の加速など大きく変化しております。こうした中で、今後の本市の教育のあり方について改めて整理し、次の時代につなげていくことが重要であります。

本日は、皆様と課題を共有しながら、教育大綱・教育振興基本計画の方向性について協議を行ってまいります。

それでは、まず、事務局より説明をお願いします。

<事務局> 「次期『会津若松市教育大綱・教育振興基本計画』策定について」説明

<議長：室井市長>

ただ今、事務局より説明がありました。皆様より、ご意見、ご提案などありましたら発

言をお願いしたいと思います。はじめに、教育大綱と教育振興基本計画を個別に策定するという点についてご意見等を伺ってまいりたいと存じます。まず、私から質問ですが、資料4ページの図と6ページの図の関連性について、もう一度、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

これまで、教育大綱・教育振興基本計画において、目的・方針となる教育大綱と、具体的な施策を示す教育振興基本計画を一体的に策定しておりましたが、次期計画の策定にあたっては、教育大綱を不変のものとして期間を定めずに策定し、具体的な施策については、次期総合計画の中の教育分野をもって教育振興基本計画と位置付けることで、総合計画と教育振興基本計画の二重であった計画を一つの計画として展開してまいりたいと考えております。

なお、計画のPDCAサイクルにつきましては、教育委員会の中でしっかりと行う必要がありますので、これまで通り、実施計画となる教育行政推進プランを毎年度策定し、点検評価を行っていく考えです。

加えて、教育大綱については、市民の皆様にお示しする機会が少なかったため、教育の基本理念として掲げられるようなものを策定してまいりたいと考えております。

<明田委員>

大綱という不変的なものがあり、そこに実施する具体的施策としての教育振興基本計画がある、それを10年で組んでいくということは分かりました。ただ、国が示している第4期計画の計画期間は令和9年度までであり、市の計画がスタートする時期と国の第5期計画が出てくる時期にずれが生じます。10年の長期計画の中でも、やはり5年で変化を持たせる部分も必要ではないかと感じました。

<事務局>

総合計画につきましては、計画期間の中間となる5年目に中間評価をいたしますので、そのタイミングで国の第5期基本計画の方針を取り入れながら展開してまいりたいと思います。

<田中委員>

確認ですが、現行は二重に計画を策定していたとのことですが、二重にPDCAサイクルを回していたということになりますか。

<事務局>

総合計画につきましては、行政評価の中でPDCAサイクルを回しており、教育委員会においても個別の計画としてPDCAサイクルを回しておりましたが、一体化することで、中間見直し等の効率化が図れると考えております。

なお、現計画については、別々の計画ではありますが、教育振興基本計画については、総合計画の抜粋でありましたので、実質的には同一の計画となっていたところであります。

<議長：室井市長>

ここからはテーマを変えてご意見を伺いたいと思います。国の第4期計画には16の目標等が掲げられていますが、特に、本市の次期計画に盛り込むべき項目などについてご意見等があればお願いします。

<教育長>

国の計画を見ますと、ほとんどが学校教育分野の内容であり、本市で教育委員会が所管している文化振興やスポーツ振興の部分の記載がありません。

他の自治体では、文化やスポーツの振興部門を首長部局に移管しているところも多くありまして、例をあげれば、県教委においては、文化については、文化財にかかる部分が教

育委員会に残り、文化振興にかかる部分が首長部局に移管されております。スポーツについては、学校保健は教育委員会に残り、スポーツ振興は首長部局に移管されています。そういう仕組みで県内でも変わった都市がいくつかあります。

次期計画期間の10年間を見越すと、本市はこのままの組織体系で行くべきか、整理すべきかを考えなくてはならないと思いますので、教育委員の皆様のお考えを伺えればと思います。

<議長：室井市長>

全国的に振興部門が首長部局へ移管されている状況については、施設の有効活用の面から進んできたものと個人的には理解しているところです。率直な感想ですが、例えば風雅堂などは、大規模大会や企業の発表会など経済的な視点で運用されている側面もありまして、本市くらいの規模だと、現状の運用で理解するしかないものと思っています。

所管事務の分掌はどこまでいってもきりがありません。例えば、ゆかりの地との交流などは総務部がやっていますが、文化的な繋がりもあります。組織にこだわらず、やるべきことはやるという形で進めていきたいと思っています。

<明田委員>

会津若松市はやはり文化があつての街であり、誇れるところだと思いますので、この部分については今後も切り離す必要はないものと感じております。スポーツに関しても地域社会とつながるコミュニティであり、教育の中に地域社会という部分があるのなら、独自の路線で問題なくいけるのではないかと感じております。

<田中委員>

振興というところは力を入れるべきところかと思います。国の計画に則ると学校教育分野に寄ってしまうなら、やりやすい方法にしていきたいと思います。

<議長：室井市長>

ありがとうございました。それでは、次の議題に移りたいと思います。これから説明いただく資料については、非公開の内容が含まれておりますので、会議を非公開として進めたいと思いますので、傍聴の方はご退席をお願いいたします。

## 協議題（２）教育施設のあり方について（非公開）

<議長：室井市長>

それでは、ここで二つの協議題についての協議は終了したいと思います。最後に、今回の総合教育会議についてのご感想や、本市の教育行政についてのご意見等を、お一人ずつお願いします。

<明田委員>

教育大綱という、変わらない指針を作っていくことが非常に重要だと感じました。また、施設の件では、将来的にこれだけ児童生徒数が減っていくのであれば、学校の統合ということも必要になってくるのかなと感じました。そして、統合によって、施設や教育環境の充実につなげていかなければならないと思います。

<長澤委員>

子どもの数の減少に伴い、緩やかに縮小しながら、最適な施設や教育環境を整えていく必要があると感じました。人数が少ないから環境が悪くなるということがないようにすることが、私たち大人の腕の見せ所かなと思います。私も勉強しながらお役に立てるよう努力したいです。

<田中委員>

次期会津若松市教育大綱・教育振興基本計画策定について、教育大綱を市民に掲げるとの話がありましたが、どのように届けて、浸透させるのかが重要だと感じましたので、私も一緒にやっていければと思います。

<議長：室井市長>  
最後に教育長からお願いします。

<教育長>  
次期会津若松市教育大綱・教育振興基本計画の策定にあたっては、計画を作るのに非常に労力を使いますが、実行する側に気持ちが残らないということがありますので、言葉遊びにならないよう気をつけなくてはならないと感じました。

<議長：室井市長>  
ありがとうございました。貴重なご意見を皆様よりいただきました。それでは、本日の全ての議題についての協議が終わりましたので、閉会といたします。

○閉 会

※会津若松市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき、非公開とした部分を除き、議事録を作成しています。